

重信川かわまちづくりに伴う
公園整備計画

令和6年1月
愛媛県東温市

1. 計画の背景と本市の課題

本市では、市域の中心を流れる一級河川重信川をかけがえのない地域資源と捉え、これをハード・ソフト両面で一体的に整備し、市民の交流や賑わいの創出につなげるため、「重信川かわまちづくり」に取り組んでいます。

この事業では、重信川かわまちづくり推進協議会（事務局：国、参加市町：松山市、東温市、松前町及び砥部町）と重信川サイクリングロード活性化推進実行委員会（事務局：愛媛県、参加市町：松山市、東温市、松前町及び砥部町）が連携しながら、それぞれの市町のリバースポットの積極的な利活用と自転車文化の定着に向けた取組により、重信川沿川の整備を一体的に推進しています。

また、本市では、現在整備中の東温スマート I C が令和 6 年 3 月に開通することから、このメリットを十分に活かして独自の魅力を創出し、交流人口や関係人口の拡大、地域経済の活性化、さらには人口減少対策に繋がる取組を進めることが大きな課題となっています。

こうした中、令和 3 年度から重信川かわまちづくりの一環として国（国土交通省）が約 5.5 h a の高水敷整備（同事業のうち、重信川リバースポット⑧：重信工業団地前）を進めており、本市では令和 5 年度から、この高水敷を有効活用した新たな公園整備計画の実施設計を進め、令和 6 年度から工事に着手する計画としています。

2. 計画の区域

今回の公園整備の計画区域は、桜つつみ公園（重信工業団地南側）から重信川緑地公園多目的グラウンド（県警機動隊西側）までの間で国が整備中の高水敷及び従来占用許可を受け公園として供用している河川敷で、総面積約 7 h a で計画しています。（別添全体構想図のとおり。）

3. 計画の概要

重信川かわまちづくりと連動した今回の公園整備は、国が整備する高水敷の特性（広大で細長い形状、工作物設置の制限等）上、利用可能な用途が限られること、また、重信川かわまちづくり推進協議会において、既存の河川敷公園等で行っている取組を下支えし、さらに発展させていく取組が有効であるとの提言があったことから、次の 3 つのエリアに分けて整備を計画しています。

① A エリア

整備概要：サッカーグラウンド（天然芝）

一般 2 面、子供用 1 面

区域面積：3.5 h a

整備年度：令和6年度から令和8年度（予定）

設計方針：現在の重信川緑地公園多目的グラウンドが市道整備により廃止となるため、代替のグラウンドとしての機能を確保します。主に小・中学生のミニ大会等により中・四国を中心に交流人口の拡大が図れるよう整備します。質の高い天然芝で整備し、常に良好な状態を保つことで、プロスポーツチームの使用にも堪える仕様とします。これによりプロチームと地元の青少年との合同練習やトレーニングマッチの開催なども可能となり、官民が連携した価値の創出と安定的な管理財源の確保を図ります。

②Bエリア

整備概要：シクロクロスコース

区域面積：2.0ha

整備年度：令和8年度（予定）

設計方針：広大で細長い形状を最大限に生かし、かすみの森公園などで開催されている既存の大会でも多くの交流人口を生み出しているシクロクロス用のコースとして、専門家の助言を得て設計、整備します。

③Cエリア

整備概要：遊具広場、スケートパーク（スケートボード場）

区域面積：1.5ha

整備年度：令和7年度（予定）

設計方針：近年人気が高まるストリートスポーツは、大会等を通じて多くの交流を生み出す可能性が高く、今回の公園整備の目的に合致することから、住民等から要望のあったスケートパークの整備を計画します。多くの利用者が気軽にスケートボードに親しめるよう、主に初心者から中級者の利用を想定し、専門家の助言を得て設計、整備します。

4. 整備を通して目指す将来像

この3エリアをそれぞれ魅力的なエリアとして整備することで、四国各県及び中国地方を中心に、全国からスポーツ愛好者が集い、交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげるとともに、本市及び松山圏域の小、中、高校生に身近なスポーツ拠点として利用してもらうことで、青少年の健全育成、さらには人口減少対策につなげていくことを目指します。